

「金沢大学がん進展制御研究所・北海道大学遺伝子病制御研究所 ジョイントシンポジウム 2019」を開催

2019年12月16日

「持続性感染により発生する感染がん」に関する共同利用・共同研究施設として認定されている北海道大学遺伝子病制御研究所とのがん研究面でのネットワーク形成を目指して、2012年から金沢と札幌で交互に毎年ジョイントシンポジウムを開催してきました。今回8回目のシンポジウムを12月16日に金沢で開催しました。双方の研究所からそれぞれ3名、あわせて6名の研究者が、2つのセッションにて最新の成果を発表しました。

最初のセッションでは、松本邦夫教授（がん進展制御研究所）が新しいタンパク工学技術を用いた生理活性を持つ人工タンパクの開発、西村建徳助教（がん進展制御研究所）がミトコンドリア内一炭素経路の酵素を標的とした薬剤の開発、園下将大教授（遺伝子病制御研究所）がショウジョバエを用いた抗がん剤スクリーニング法という、出口を目指す研究の成果が発表されました。

二番目のセッションでは、馬場智久准教授（がん進展制御研究所）が細胞外小胞による二次性白血病の発症機構、遺伝子病制御研究所の藤田恭之教授・竹内康人博士研究員が発がん抑制機構としての細胞競合に関する詳細な分子機構という、発がん過程での役割が最近注目されている現象に関する成果が発表されました。

いずれのセッションでも、最新の成果が発表されるとともに、予定時間を越えた活発なディスカッションがなされました。シンポジウム終了後は、がん進展制御研究所の忘年会を兼ねた Mixer が片町で行われ、北大側の参加者も交えた活発なディスカッションが夜遅くまで行われ、本研究所と遺伝子病制御研究所とのネットワークがさらに強固なものとなりました。



司会 向田直史 先生



開会挨拶 平尾敦 先生

セッション1



座長 善岡克次 先生



松本邦夫 先生



西村建徳 先生



北大 園下将大 先生

セッション2



座長 須田貴司 先生



馬場智久 先生



北大 藤田恭之 先生



竹内康人 先生



ジョイントシンポジウム後の集合写真

金沢大学がん進展制御研究所
北海道大学遺伝子病制御研究所

ジョイント シンポジウム 2019

写真提供:金沢市

令和元年

日時

12月16日[月]
14:00~17:35

場所

金沢大学自然科学系図書館
G1階 AVホール

プログラム

- **開会の挨拶** 14:00~14:10 平尾 敦 (金沢大学がん進展制御研究所 所長)
- **セッション1** 14:10~15:45 座長: 善岡 克次
 - 14:10~14:45 MET受容体を制御する高機能環状ペプチドとプロテインエンジニアリング
松本 邦夫 教授
(金沢大学がん進展制御研究所・腫瘍動態制御研究分野)
 - 14:45~15:10 ミトコンドリア内一炭素代謝経路の酵素を標的とした抗腫瘍効果の評価
西村 建徳 助教
(金沢大学がん進展制御研究所・分子病態研究分野)
 - 15:10~15:45 個体レベルの化学遺伝学によるがん治療薬開発の加速
園下 将大 教授
(北海道大学遺伝子病制御研究所・がん制御学分野)
- **コーヒーブレイク** 15:45~16:00
- **セッション2** 16:00~17:25 座長: 須田 貴司
 - 16:00~16:25 ドナー細胞由来白血病における白血病細胞由来細胞外小胞の病態生理学的役割
馬場 智久 准教授
(金沢大学がん進展制御研究所・分子生体応答研究分野)
 - 16:25~17:00 正常上皮細胞と変異細胞間に生じる細胞競合
藤田 恭之 教授
(北海道大学遺伝子病制御研究所・分子腫瘍分野)
 - 17:00~17:25 上皮恒常性維持を担うカルシウムウェーブ
竹内 康人 博士研究員
(北海道大学遺伝子病制御研究所・分子腫瘍分野)
- **閉会の挨拶** 17:25~17:35 園下 将大 (北海道大学遺伝子病制御研究所 教授)

■主催:
・金沢大学がん進展制御研究所
・北海道大学遺伝子病制御研究所

■後援:
・金沢国際がん生物学研究会

■共催:
・金沢大学ナノ生命科学研究所(NanoLSI)
・金沢大学新学術創成研究機構(InFiniti)
・文部科学省「がん専門医療人材」養成プラン
-北信がんプロ-



連絡先

金沢大学がん進展制御研究所 共同利用・共同研究拠点推進室
TEL:076-264-6702 FAX:076-234-4527 E-mail:kyoten@adm.kanazawa-u.ac.jp URL:http://ganken.cri.kanazawa-u.ac.jp/

写真提供:金沢市